

シリーズ= 地方創生に挑む!



第2回
静岡銀行

「独創的なキャンプ事業」 支援の取組み

秘境のキャンプ場を運営する 南伊豆の事業者の成長を支援

事業性を評価して観光活性化ファンドからの投資を決定

大

人の秘密基地——こんな言葉にピッタリのキャンプ場が伊豆下田にある。そこは目の前が海、周囲は山に囲まれ、まるで無人島にきたかのようなロケーション。船でしか行くことのできない秘境の地にある。

幼い頃、親しい友達と一緒に作った秘密基地の思い出は、大人になっても決して色褪せることなく、多くの人の心に残っていることだろう。これは、仲間とともに作ったシックレットな遊び場

がどこよりも楽しかったからだ。多くのキャンプ場は区画が整備され、電源や水回りなど施設が充実している中、まさに秘密基地感覚に溢れたキャンプ場をオープンさせてしまったのが、VILLAGE INN（ヴィレッジインク）代表取締役の橋村和徳さん。伊豆下田を拠点に、既存のキャンプ場とは一味もふた味も違った「大人のための遊び場づくり」を運営。キャンプ界で、いま注目のパースンだ。裾野が広い観光産業の活性化は地方創生の主要なテーマともなっ

ているが、静岡銀行は「しずおか観光活性化ファンド」を通じて、ヴィレッジインクに8000万円を出資。金融面をはじめ幅広い支援を展開している。今回は、静岡銀行の地方創生の考え方や体制、これまでの主な取組みなどを見たうえで、ヴィレッジインクへのサポート内容をレポートする。

中部（東海）地方に位置し、日本のシンボルである富士山を持つ

地方版総合戦略では特に「しずおか」がキーワード

減は7561人。これは全国ワースト2位である。静岡県では「美しいふじのくに」まち・ひと・しごと創生長期人口ビジョン」と「地方版総合戦略」を昨年10月に策定。人口減少を克服して、東京への一極集中に歯止めをかけるため、「オール静岡」で地方創生に取り組んでいるところだ。

こうした中、静岡銀行は、県や市内35市町と連携して地方創生に力を注ぐ。そのスタンスなどについて、若林紀伸・地方創生部理事部長は次のように語る。

「地域金融機関として地方創生に積極的に関与し、より機動的な対応を図るため、昨年6月より地方創生部を設置しています。地方創生と一口に言いますが、そのテーマは非常に幅広いので、地方創生部が中心となって本部各部やグループ会社と連携し、各種施策の検討と推進を行っています。これまで培ってきた様々な知見を活かし、地方公共団体、産業界、教育機関等と緊密に連携しながら地域の活性化を目指しているわけです」



静岡県。県内人口は約370万人で、都道府県別の人口ランキングでは10位だ。静岡県の人口動態を見ると、ピークだった2007年の約379万人から減少傾向となり、2040年までに75万人が減少して約304万人となることが推計されている（国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」）。

「地域金融機関として地方創生に積極的に関与し、より機動的な対応を図るため、昨年6月より地方創生部を設置しています。地方創生と一口に言いますが、そのテーマは非常に幅広いので、地方創生部が中心となって本部各部やグループ会社と連携し、各種施策の検討と推進を行っています。これまで培ってきた様々な知見を活かし、地方公共団体、産業界、教育機関等と緊密に連携しながら地域の活性化を目指しているわけです」

が、やはり地方版総合戦略の中では特に「しずおか」が重要な要素だと考えています。ここにどう関わって、地方創生を実現していくかが大きな役割です」

セミナーや会議を開催し 広域連携をバックアップ

地方創生のキーワードの一つが「広域連携」だ。静岡には県のほか、二つの政令指定都市と33のその他市町があるが、縦割り行政は是正。1市町単位ではなく、共通の魅力や課題等を持った地公体、あるいは地域活性化に資するソフトを共有できる地公体が連携して地方創生に取り組むことで、大きな相乗効果が期待できる。

そこで静岡銀行は昨年7月、各地公体の地方版総合戦略の策定に向け、地方創生セミナーを開催。県内の西部・中部・東部各地域で行われたセミナーには、静岡県と県内すべての市町が参加した。セミナーでは、隣接する市町が課題や問題意識を共有したほか、戦略策定のポイント、定住促進や地域経済活性化のノウハウ、静岡

銀行の支援メニューを紹介。地方創生部では、しずおか観光活性化ファンドを活用した地域振興ノウハウについて説明した。

9月25日には、県内の市町の首長、すべての地公体の担当職員らが地方創生について意見交換を行う「地方創生全体会議」を、テレビ会議システムを使って開催。静岡銀行からは、中西勝則頭取をはじめ全支店長を含む役員300名が出席。加えて教育機関、商工会議所など関連団体、マスコミなど総勢470名が同システムを通じて参加した。

会議当日、増田寛也・日本創生会議座長は東京営業部で講演し、地方創生の重要性やポイントを助言。全国に先駆けて地方版総合戦略を策定した西原茂樹・牧之原市長は、榛原支店から参加し、戦略のポイントを解説した。

「当行は『地域の課題を共有し、ともにその解決にあたる』という社会的責任を認識しています。静岡県は東西に長く、西部・中部・東部とそれぞれに独自の地域特性を持っています。こうしたセミナー